

講義名	国際法		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	則武 立樹		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>			
<p>TVのニュース等々では連日世界の惨状が繰り返し伝えられている。過去だけでなく、現在もなお、国家間の対立は時に戦争にまで発展し、国家主導による大規模な人権侵害が行われることも多々ある。これらは決して私たちには関係ないとは言いきれない問題なのである。そこで、学生自身が国際社会の一員として生きていくために、「国際社会の平和と安全」を維持するためにどう関与していけばよいのかという必要な知識を身につけることを目的とする。</p> <p>まずは、「国際社会の成り立ちを理解し、「国際法」と呼ばれる国際社会のルールの観点から、先人たちがいかにして「平和」を維持しようと努力してきたのかについて学ぶ。また、下記の授業計画に沿って、今現在世界で問題となっている様々な事象について、問題発生の際の経緯や現状、結果、問題点などを適宜解説していく。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>学生が国際社会で生じる諸問題について、その問題点、原因、現在講じられている国際社会の取り組み等、その問題の概要を新聞記事やニュース等から読み解くことができるようになる。</p> <p>学生が同問題の解決について、論理的に思考し、自らの言葉で説明できるようになる。</p>			

<b>提出課題</b>			
<p>授業内にて適宜コメントカードの提出を求める。</p>			

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>			
<p>次回授業内にて解説する。</p>			

<b>評価の基準</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点（出席、授業中の問答、コメントカードの提出状況）（30％）</li> <li>・到達度の確認（70％）</li> </ul> <p>上記の評価項目を総合的に判断して最終的な成績を算出する。</p>			

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>			
<p>・本科目では、受講生が法学初学者であることを念頭に、抽象的で難解だと思われがちである「法」の話を出来る限り易しく解説し、また、国際社会で実際に生じている具体的問題を取り上げることで、受講生の皆さんに「国際法」というものをより身近に感じながら学んでもらう予定である。わからない部分がある場合にはそのままにせず、積極的に講師に質問して欲しい。</p> <p>・授業中の私語、スマートフォン及びパソコンなどの電子機器の操作等、授業と関係のない行動は認められない。悪質である場合には退室を命じるほか、減点の可能性もあるので注意すること。</p>			

<b>教科書</b>	
.使用しない。	

<b>プリント資料及び参考文献</b>	
授業内にて適宜紹介する。	

<b>授業計画</b>	
第1回	オリエンテーション
第2回	国際社会とは何か 国際社会の法と構造
第3回	人権の国際的保障 「人権」とは？どうやって保障すべきか？
第4回	「女性」を巡る人権問題 「文化」と「人権」の相克（名誉毀人/女性器切除）
第5回	「LGBT」を巡る人権問題 「マジョリティ」優位社会における「マイノリティ」の扱い
第6回	人権条約と日本 日本は「人権」を守っているのか？（部落差別）
第7回	領土問題 竹島・尖閣諸島・北方領土問題をどう「平和的」に解決に導くべきか？
第8回	国際経済関係 「平和」を脅かす経済の仕組みとは？「絶対的貧困層」を救う手立てを考える
第9回	日韓関係を巡る過去、現在 従軍慰安婦問題とヘイトスピーチ問題
第10回	安全保障と「平和」 北朝鮮核兵器問題、テロリズム、米軍と沖縄基地
第11回	紛争と「平和」 ルワンダ虐殺問題（事実概要）
第12回	紛争と「平和」 映画「ホテル・ルワンダ」から見るルワンダ虐殺問題に対する国際社会の対応
第13回	児童労働と「平和」 劣悪な環境下で働かされている子ども達をどう救うか？
第14回	民族差別 アボリジニ、アイヌ、ロヒンギャ
第15回	到達度の確認とまとめ

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>	
ア	PBL（課題解決型学習）
イ	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ	ディスカッション、ディベート
エ	グループワーク
オ	プレゼンテーション
カ	実習、フィールドワーク

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>	
<p>本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。まず予習として、各回のテーマについて、インターネット等を用いてどのような問題が発生しているのかを調査しておくこと。そして、受講後には当該授業内容の復習を行うこと。また、日常生活での心構えとして、国際関係に関する新聞記事やニュースに積極的に触れることも重要である。</p>	

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>	
<p>コメントカードの活用により、一方的な講義形式ではなく、学生自身主体的に考えられるよう、双方向でのやり取りを行う。</p>	

<b>実務経験の有無及び活用</b>	

<b>備考</b>	
なし	